

## 報告事項才

平成24年度から平成30年度までの県立高等学校の在り方検討に係る  
パブリックコメントの実施について

平成24年度から平成30年度までの県立高等学校の在り方検討に係るパブリックコ  
メントの実施について、別紙のとおり報告します。

平成21年10月15日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

平成24年度から平成30年度までの県立高等学校の  
在り方検討に係るパブリックコメントの実施について

1 事案

平成24年度から平成30年度までの県立高等学校の在り方について、広く県民から意見聴取するため、パブリックコメント及び県政参画電子アンケートを実施する。

実施予定時期	平成21年10月16日(金)～11月16日(月) 生徒減少期における今後の県立高等学校の在り方について 基本的な方針をどのようにするか 実施結果の公表(平成21年12月頃)
--------	---

2 パブリックコメント・県政参画電子アンケートの概要(別添)

次の3点について設問

<b>検討事項1</b>	<b>普通科系学科・専門学科・総合学科の設置割合について</b>
	(案1)普通科系学科の割合を増やす。 (案2)専門学科の割合を増やす。 (案3)総合学科の割合を増やす。
<b>検討事項2</b>	<b>生徒減少期における今後の県立高等学校の在り方について</b>
	(案1)現在の学校数や配置、一学級あたりの生徒数を維持し、学科を精選しつつ、学級数を減らすことで対応する。 (案2)学科の配置に配慮し、一定の学校規模を維持しながら再編成を行い、学校数を減らすことで対応する。 (案3)現在の学校数や配置、多様な学科を維持し、各学校の実情に応じて一学級あたりの生徒数を減らすことで対応する。
<b>検討事項3</b>	<b>今後の学科の在り方について</b>
	(1)今後、社会のニーズに応えたり、地域社会を支える人材を育成していく上で、さらなる充実を図ったり、見直しをしたりする必要のある学科について (2)今後、時代や社会の変化に対応していく上で、新たに必要となる学科や教育内容について

3 パブリックコメント・県政参画電子アンケート実施後のスケジュール(予定)

平成22年1月定例教育委員会  
平成30年度までの方針案を仮決定

平成22年3月定例教育委員会  
平成24・25年度の改編計画案を仮決定

第2回パブリックコメント  
平成30年度までの方針案  
平成24・25年度の改編計画案

平成22年7月定例教育委員会  
平成30年度までの方針、平成24・25年度の  
改編計画を最終決定

各学校等の意見を聞きながら、弾力的に検討していくこととする。

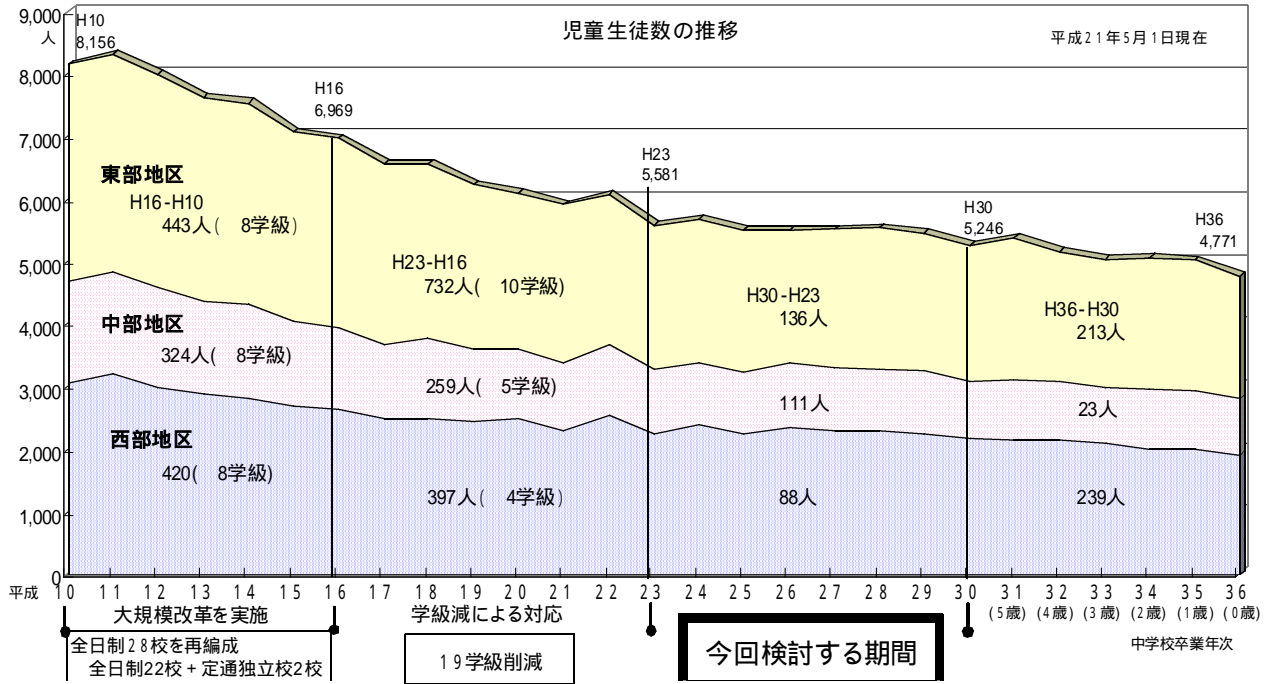
## 平成24年度から30年度までの 鳥取県立高等学校の在り方についてご意見をお寄せください

### 【今後の県立高等学校の在り方を検討する背景】

#### 1 生徒数の減少が今後も続きます。

県教育委員会では、県立高等学校の教育改革に継続的に取り組み、平成23年度までの改革については既に決定したところです。

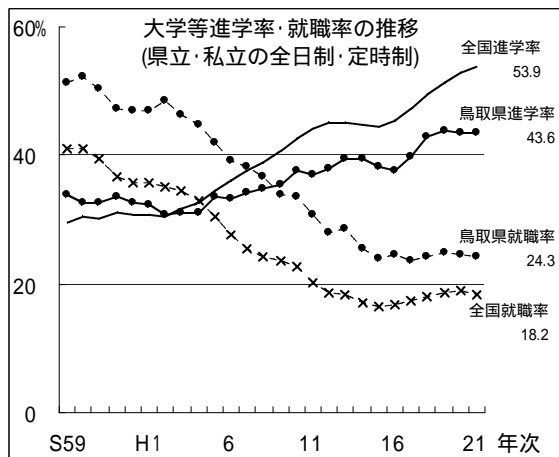
しかし、少子化に伴う中学校卒業生の減少は今後も続くことや、社会の変化や生徒・保護者のニーズを踏まえながら、これからも県立高等学校の在り方の検討を継続していく必要があります。



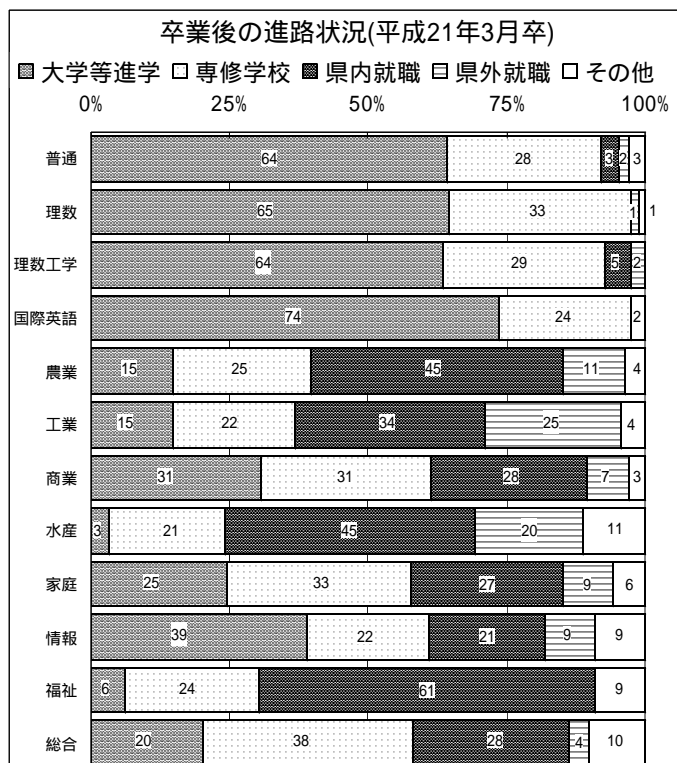
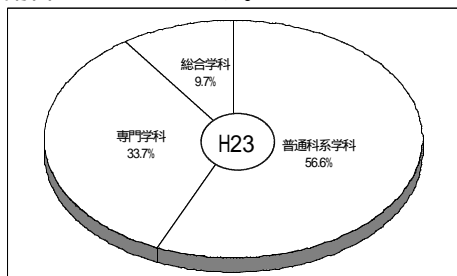
#### 2 知・徳・体の育成を大切にし、地域を支える人材を育てることが必要です。

大学等進学率は、全国平均を下回っています。

高校卒業後に県内就職する生徒数は2割弱であり、県人口の減少が著しい今日においては、ふるさとを支え、活躍できる人材が求められています。



鳥取県の普通科系学科・専門学科・総合学科の募集定員の割合は、およそ6:3:1の割合となっています。



次の検討事項1～3について、ご意見を募集します。(意見は別紙の回答用紙でお願いします。)

**【検討事項1】普通科系学科・専門学科・総合学科の設置割合について**

現在、この設置割合はおおよそ6：3：1ですが、県教育審議会からは、「生徒の状況を勘案しつつ、保護者や産業界をはじめとした県民ニーズを重視するとともに、各学校や学科の特色を考慮して、設定する必要がある」との答申をいただいています。県教育委員会では、この内容を踏まえて、今後の在り方について検討しています。検討にあたって、次のような案がありますが、どのようにするのが望ましいとお考えですか。

<b>案1</b>	<b>普通科系学科の割合を増やす。</b>
	現在、本県の普通科系学科には、普通、理数、理数工学、国際英語の学科があります。全国的に大学等への進学希望者が増加している中で、大学等へ円滑に接続できる学習が可能な学科です。
<b>案2</b>	<b>専門学科の割合を増やす。</b>
	現在、本県の専門学科には、農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉の学科があります。職業人として必要な資質や能力を育成し、地域を支える人材を育成することを目指す職業系の学科です。
<b>案3</b>	<b>総合学科の割合を増やす。</b>
	これまでの「普通学科」「専門学科」の枠を越えて、両科の学科の学習内容を柔軟に学習できる学科です。さまざまな選択科目の中から自ら選択して学ぶことが可能であり、将来の職業選択を視野に入れて進路への自覚を深める学習を重視します。

**【検討事項2】生徒減少期における今後の県立高等学校の在り方について**

今後の県立高等学校の在り方について、県教育審議会からは、「生徒減少期をきめ細かな指導ができる好機ととらえ、現在の学校数及び配置は維持し、各学校の実情に応じて学級定員を減らして、多様な学科を維持すべき」との答申をいただいています。県教育委員会では、この内容を踏まえて、今後の在り方について検討しています。検討にあたって、次のような案がありますが、普通科系学科・専門学科・総合学科の学校の在り方は、それぞれどのようにするのが望ましいとお考えですか。

<b>案1</b>	<b>現在の学校数や配置、一学級あたりの生徒数を維持し、学科を精選しつつ、学級数を減らすことで対応する。</b>
	<p>&lt;メリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の再編成を行う必要がなく、多様な学校を維持することができる。</li> <li>・学校を維持するための新たな財政負担がない。</li> </ul> <p>&lt;デメリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な専門学科の維持が困難となったり、開設できる教科・科目の設置数が少なくなる。</li> <li>・生徒数の減少により小規模校が増えることから、学校の活力低下が懸念される。</li> </ul>
<b>案2</b>	<b>学科の配置に配慮し、一定の学校規模を維持しながら再編成を行い、学校数を減らすことで対応する。</b>
	<p>&lt;メリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定規模の学校を維持することができる。</li> <li>・学校を維持するための財政負担が少なくすむ(改編には一時的に経費が必要となる場合もある)。</li> </ul> <p>&lt;デメリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が無くなる地域では、地域の活力の低下につながる懸念がある。</li> <li>・地域や選択する学科によっては、通学距離が長くなる場合もある。</li> </ul>
<b>案3</b>	<b>現在の学校数や配置、多様な学科を維持し、各学校の実情に応じて一学級あたりの生徒数を減らすことで対応する。</b>
	<p>&lt;メリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の再編成を行う必要がなく、多様な学校・専門学科・教科・科目を維持することができる。</li> <li>・生徒の学力、学習意欲に応じた、きめ細かな学習指導ができる。</li> </ul> <p>&lt;デメリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の減少により小規模校が増えることから、学校の活力低下が懸念される。</li> <li>・学校を維持するための財政負担が大きくなり、財源の捻出が必要となる。</li> </ul>

## 【検討事項3】今後の学科の在り方について

現在の県立高等学校で設置している学科は次の12学科で、それぞれ特色ある教育活動を行っています。生徒が人間的な力を身に付け、地域社会を支える人材として成長していくことが期待されていますが、今後の学科の在り方について、お尋ねします。

タイプ	学 科 名
普通科系学科	A 普通学科、B 理数学科、C 理数工学科、D 国際英語学科
専 門 学 科	E 農業学科、F 工業学科、G 商業学科、H 水産学科、I 家庭学科、 J 情報学科、K 福祉学科
総 合 学 科	L 総合学科

- (1) 今後、社会のニーズに応えたり、地域社会を支える人材を育成していく上で、さらなる充実を図ったり、見直しをしたりする必要のある学科はどの学科だと思いますか。(A～Lの学科名からお選びください。複数可。)
- (2) 今後、時代や社会の変化に対応していく上で、新たに必要となる学科や教育内容にはどのようなものがあると思いますか。(A～L以外で、例を参考にお答えください。学科または教育内容のいずれだけでも結構です。)

(例)

- ・キャリア探求科 自分の意思で将来の職業を選ぶ力を付ける学習をする
- ・国際観光科 観光業務を通して日本の経済や文化を大きな視野に立って学ぶ
- ・環境防災科 自然環境や社会環境との関わりを視点に据えた防災教育を推進することによって、共生社会における人間としての在り方・生き方を考える

### 【募集期間】

平成21年10月16日(金)から11月16日(月)まで

### 【応募方法】

回答用紙により、郵送、ファクシミリ、電子メールでお寄せいただくか、各教育局、県庁県民室、各総合事務所県民局又は県立図書館に設置している意見箱へ投函ください。また、高等学校課へ直接持参していただくことも可能です。

(1) 郵送

〒680-8570 (住所の記載は不要です)

鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 高校改革推進室 宛

(2) ファクシミリ

0857-26-0408

(3) 電子メール

koutougakkou@pref.tottori.jp

### 【高等学校課ホームページ】

こちらで、資料がご覧いただけます。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=76399>

回答用紙は、このホームページからもダウンロードできます。

### 【問合せ先】

鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 高校改革推進室

電話番号：0857-26-7517, 7917

【回答用紙】

「平成24年度から30年度までの鳥取県立高等学校の在り方」に対する意見

【検討事項1】普通科系学科・専門学科・総合学科の設置割合について

このことについて、望ましいと思われる案の番号を回答欄に記入してください。

- (案1) 普通科系学科の割合を増やす。
- (案2) 専門学科の割合を増やす。
- (案3) 総合学科の割合を増やす。

回 答 欄	
その理由 とご意見	

【検討事項2】生徒減少期における今後の県立高等学校の在り方について

このことについて、望ましいと思われる案の番号を回答欄の区分ごとに記入してください。

- (案1) 現在の学校数や配置、一学級あたりの生徒数を維持し、学科を精選しつつ、学級数を減らすことで対応する。
- (案2) 学科の配置に配慮し、一定の学校規模を維持しながら再編成を行い、学校数を減らすことで対応する。
- (案3) 現在の学校数や配置、多様な学科を維持し、各学校の実情に応じて一学級あたりの生徒数を減らすことで対応する。

区 分	普通科系学科	専門学科	総合学科
回 答 欄			
その理由 とご意見			

【検討事項3】今後の学科の在り方について

- (1) 今後、社会のニーズに応えたり、地域社会を支える人材を育成していく上で、さらなる充実を図ったり、見直しをしたりする必要のある学科はどの学科だと思いますか。(A～Lの学科名から選び、回答欄に記入してください。複数可。)
- (2) 今後、時代や社会の変化に対応していく上で、新たに必要となる学科や教育内容にはどのようなものがあると思いますか。(A～L以外で、例を参考にお答えください。学科または教育内容のいずれだけでも結構です。)

(1)	回 答 欄	
	その理由 とご意見	
(2)	学 科	
	教 育 内 容	

その他、鳥取県の県立高等学校における教育についてご意見があれば、ご自由にお書きください。

\* ご意見ありがとうございました。差し支えなければ、下記もご記入をお願いします。

(居住地) <例: 鳥取市>	(年齢)	歳代
----------------	------	----